科目コード	記号		科	目 4	<u></u>		
2561	2561 BS36 システム設計論 : Design of Information System						
教 員	名	武藤義彦 : MUTO Yoshihiko					
学年	学年 単位·時間 4B 1·100分		必修·選択	授業形態	単位種別		
4B			必修	講義·前期	学修単位		

複雑化する情報システムの品質および信頼性を高めるためには、設計段階からのシステマティックなアプローチが重要である。本講義では構造化設計をテーマとして、最初にデータ分析手法として E-Rモデルを取り上げる。次に DFD を用いた業務のモデル化を演習を通して身につける。さらに実装レベルの設計手法や開発手法を学ぶ、以上の一連の方法論を学んだのち、改めて要求定義に必要なヒヤリング手法を説明し、実践する。

到達目標

評価方法

- (1) 設計モデルの特徴を理解できる.

評価方法は、(1)中間試験、(2)

(2) データの正規化をできる. (3) E-RモデルやDFD による対象業務の記述ができる. できる.											
		レ化の必	要性を理	解できる.		35%, (3	3)30%とす	3 .			
学	学習·教育目標		В	B①		JABEE基準1(1)		(c)			
	回	項	目	前		<u>期</u> 内	容				
			ロ ダクショ								
	第1 ン プロセスモデル			情報システム設計の概要							
				ウォーターフォールモデル, 成長モデル, らせん モデル, プロセスモデル							
	第3	コストモデル		Function Point 法,COCOMOによる工数見積もり							
	第4	データ分析(1)		E-Rモデルによるエンティティの関連づけ							
授	第5	データ分析(2)		データの正規化							
	第6	プロセス分析 (1)		DFDを用いた業務のモデル化							
業	第7	プロセス分析 (2)		データ・ディクショナリとミニスペックによる詳細記述							
	第8	中間まとめ		中間まとめとして試験を実施する							
計	第9 設計工程(1)			コード設計とファイル設計							
	第10	設計工程(2)		モジュー評価基準		図を用い	た構造化詞	設計の手法と			
画	画 第11 開発工程 第12 要求定義法(1) 第13 要求定義法(2)		テストケースの設計とモジュール集積テストの手 法								
			義法(1)	ヒアリングによるユーザの要求の把握, ドキュメント化の技法							
			義法(2)	エンジニ 義	アのマ	ネジメント	の視点か	ら見た要求定			
	第14	ソフトウェア開 発環境		ソフトウェアツール, CASE, ビジュアル開発環境							
第15 まとめ -			全体の学習事項のまとめと授業評価アンケート 調査を行う								
関連科目											
			河村一村	樹,情報システム設計・開発技術,近代科学社							
177 4	参考										
	業評価・ 副担当都		最終回に授業評価アンケートを行う.								
	備考										
	hH1 ,	. J	~= 	, - I C AL	, , , , , o)						